

# 入院診療計画書

診療科: 消化器外科



## 腹腔鏡下胃局所切除術 を受けられる

様へ



入院説明日:

入院時の診断・病態

病棟:

月日(日時)	外来	入院日/手術前日	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2日目
経過(病日等)						
目標	治療(検査)の目的を理解し同意している	手術前後の流れが理解できる 不安を表出できる 手術に向けての準備ができる 手術の必要物品が揃っている	手術に臨むための精神的・身体的準備が整っている	血圧・脈拍・体温が安定している 呼吸状態が安定している。 痛みやお腹の管の不快感が軽減する 起き上がり、歩行ができる	血圧・脈拍・体温が安定している 呼吸状態が安定している。 痛みやお腹の管の不快感が軽減する 起き上がり、歩行ができる	発熱がない(体温=37.5度以下) 痛みが軽減する 手術後の合併症がない 尿管が抜け排尿ができる 積極的に歩行ができる お水を飲むことができる
処置・薬	・血液をサラサラにするお薬(抗凝固剤)を飲まれている方は医師にお伝え下さい ・常用しているお薬があれば、入院時にご持参下さい	内服薬は持参してください 手術部位の毛ざりとお臍の掃除をします 寝る前に眠剤と下剤を飲んで頂きます	必要な場合はお薬を飲んでいただきます 朝食をします 手術が11時以降の場合は、点滴をします	手術中に以下が入ります 胃管(鼻からの管) 尿管(尿の管) ドレーン(お腹の管) 硬膜外麻酔(背中の管) 点滴の針を挿入し点滴をします 痛みのある時は、痛み止めをします 足のマッサーの機械をつけます	ガーゼ交換をします 胃管を抜きます	必要時に内服が始まります
検査	血液検査 心電図 レントゲン 肺機能検査 尿検査			レントゲン撮影(病室のベッドの上で)	採血検査をします ドレーン(お腹の管)排液検査があります レントゲン撮影(病室のベッドの上で)	
観察		検温をします	手術前に検温をします	状態が落ち着くまでは、頻回に血圧を測り、 お腹を観察をします	検温をしてお腹の状態を観察します	
活動		病院内は自由です 外出は医師の許可が必要です	なるべく病室でお過ごしください	ベッド上安静です 横を向いたり、手足を動かしたりしても構いません	歩けるようになります 初めは看護師が付き添います	病棟内は自由です。
食事		食事は夕食までです 飲水は手術時間によって異なるので説明します	朝から絶食です 飲水は( )時までです	絶飲食です	絶飲食です	水分が始まります。 初回飲水の時は看護師が見守ります
清潔		毛ざりとお臍の掃除の後、必ずシャワー浴してください			看護師が体をお拭きします	シャンプーもお手伝いします。 希望時はお伝えください。
排泄		病棟のトイレをご利用ください		手術中に尿の管が入ります		尿管を抜きます。 その後は尿をためていただきます
患者様及びご家族への説明・書類	日常生活について伺います 入院申し込み 手術必要物品 入院診療計画書 禁煙の説明をします 手術前訓練のパフレットをお渡しします	手術前訓練の説明をします 集中治療室を案内します 入院期間中に薬剤師より薬剤指導があります 本人確認のためのリストバンドをつけます 血栓予防のための弾性ストッキングのサイズを測り、着用方法を説明します。 手術に必要な物品確認をします 手術と麻酔の説明があります 手術室の看護師が訪問します 管理栄養士による栄養指導があります	貴重品はご家族に預かって頂いてください ご家族は手術終了まで院内で待機していただくよう、お願いします	手術後は集中治療室に入室します 手術直後に主治医より、手術の経過をご家族に説明します		( )時に集中治療室から病棟に戻ります 管理栄養士による食事指導を行います (パンフレットに沿って、飲水・食事のとり方について) 普段食事を作るご家族も参加ください

上記の説明を受け、理解しましたので同意します

平成 年 月 日

説明医師:



受持ち看護師 :  
説明看護師 :

患者または  
家族氏名 :

注1: 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくに従って変わることがあります。

注2: 入院期間については現時点で予想される期間です。ご了承ください。

月日(日時)	/	/	/	/	/	/	/	/
経過(病日等)	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後6日目	手術後7日目	手術後8日目	手術後9日目	退院日
目標	発熱がない(体温=37.5度以下) 痛みが軽減する 手術後の合併症がない 積極的に歩行ができる ダンピング症状がなく食事が摂取できる	発熱がない(体温=37.5度以下) 痛みが軽減する 手術後の合併症がない 積極的に歩行ができる ダンピング症状がなく食事が摂取でき、点滴が終了できる	発熱がない(体温=37.5度以下) 痛みが軽減する 手術後の合併症がない 積極的に歩行ができる ダンピング症状がなく食事が摂取できる	発熱がない(体温=37.5度以下) 痛みが軽減する 手術後の合併症がない ダンピング症状がなく食事が摂取できる	発熱がない(体温=37.5度以下) 痛みが軽減する 手術後の合併症がない ダンピング症状がなく食事が摂取できる	発熱がない(体温=37.5度以下) 痛みが軽減する 手術後の合併症がない ダンピング症状がなく食事が摂取できる	発熱がない(体温=37.5度以下) 痛みが軽減する 手術後の合併症がない ダンピング症状がなく食事が摂取できる	今後の治療方針を受け納得している 退院後の食生活が理解できる 発熱がない(体温=37.5度以下) ダンピング症状がなく食事が摂取できる
処置・薬	ガーゼ交換をします ドレーンを抜きます 硬膜外麻酔が無くなれば背中 の管を抜きます 点滴をします	ガーゼ交換をします 点滴が終了すれば、点滴の針を 抜きます	ガーゼ交換をします	ガーゼ交換をします	ガーゼ交換をします 半分抜糸をします	ガーゼ交換をします 残りの半分の抜糸をします		
検査	ドレーン(お腹の管)排液検査があり ます 採血検査をします(朝)				レントゲン撮影があります 採血検査をします(朝)			
観察		検温をして、お腹の状態を観察 をします。 食事の量や食べ方をお聞きしま す。						
活動	病棟内は自由です	病院内は自由です。 食後30分は安静です						
食事	胃切食(重湯)が始まります 一度の食事を半分にして、2回に分 けて食べてください	胃切食2 お粥に米粒が入ります おかずはペーストです	胃切食3 おかずは細かくきざんでいます	胃切食4 米粒が多くなります やわらかいおかずです	胃切食5 やわらかいおかずです 少し量が増えます	胃切食6 普通食にちかいおかずです	胃切軟食～普通食	胃切軟食～普通食
清潔	看護師がお体を拭きます	お腹と背中の管が抜ければ、 シャワーができます				抜糸が終われば、入浴できます。		
排泄	尿をためます	尿をためます	本日9時まで尿をためます 以後蓄尿は終了します					
患者様及びご家族への説明・書類		病棟内を歩行できるようになれば、 弾性ストッキングを脱いででも かまいません			病理結果が出ていれば、説明しま す。 出ていない場合は外来で説明しま す。 退院後の食生活の注意点を説明 します。	医師の許可のもと退院日を決定しま す。 傷やおなかの状態、食事の摂取状況によって退院日を検討しま す。 退院は基本的に10時です。 退院療養計画書、診察券をお渡しま す。		退院は基本的に10時です。

